

公益社団法人ガールスカウト日本連盟

2022年度
事業報告書



わたしが変わる。
未来が変わる。

2022年度 事業報告書 目次

ガールスカウト日本連盟 使命	2
ガールスカウト日本連盟 活動基本方針	2
ガールスカウト日本連盟 ビジョン2032	2
ガールスカウト日本連盟 2022年度事業総括	3
事業実施報告	9
日本のガールスカウト運動100周年事業関連	9
教育プログラム	12
成人のトレーニング	18
組織と運営	20
会員	24
社会との関係	25
財政	30
民間助成金	33
世界連盟への寄付（2023年3月末時点）	33
他団体役員等就任状況	34

ガールスカウト日本連盟 使命

少女と若い女性が自分自身と他の人々の幸福と平和のために、責任ある市民として自ら考え、行動できる人となれるようにする。

ガールスカウト日本連盟 活動基本方針

ガールスカウトは少女と女性の視点に立って、より幸せな社会と未来の実現を目指し、リーダーシップを発揮できる人材を育成するとともに、社会に変化をもたらすチェンジエージェントとして行動します。

ガールスカウトは自らが行動していく運動です。日本では 100 年前から「自分で考え、行動できる女性」を育てるノンフォーマル教育に取り組んできました。ガールスカウトの少女たちは、人との関わりを通して、さまざまな役割と活動を経験していく中で、豊かな人間性を身につけていきます。そして、自分の人生を自分で切り拓く力をもった女性に育っています。

私たちのこれからの挑戦は「女性とその可能性を最大限に発揮できる社会環境をつくりあげていく」ことです。そのために、少女と女性の可能性を伸ばすことを妨げる問題に対して声をあげ、社会に変化をもたらす行動を積極的におこない、貢献していきます。

ガールスカウト日本連盟 ビジョン2032

ガールスカウトは、「すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会」を目指して行動する女性を育てる。

ガールスカウト日本連盟 2022年度事業総括

2022年度は、『2021-2023戦略計画』の2年目として、また日本のガールスカウト運動100周年事業の最終年として、ビジョン2032の達成に向けて取り組みを進めました。

コロナウイルス感染症により、長く活動が制限されてきましたが、感染対策に努めながらリアルでの活動も少しずつ増やしていくことができた一年となりました。しかしながら、まだ従来の活動には戻すことができない状況下であったため、全ての会員が同じ方向を向き、一人でも多くの少女と若い女性にガールスカウト活動を通して成長の場を提供することを継続しておこないました。

『2021-2023年戦略計画』によりビジョン2032の達成のために取り組むべき課題

1. ねばならない意識が強い
2. 現代社会において、少女・女性が必要とする教育を、年代に合わせて適切に（質・量）提供できていない
3. 組織の運営や情報活用の方法が時代に適していない
4. 運動の仲間の減少が続いている
5. 社会に対してのアピール度が低い

課題解決のために、持続的に取り組めるような仕組みを検討しながら一人でも多くの会員に関わっていただく機会を提供できるようにし、2022年度も2021年度同様に以下のことを念頭に進めました。

- ・「やくそくとおきて」にある価値観をより共有し、活動に生かすことを目指す
- ・会員間のつながり・情報共有を強化し、さらに関わる人を増やすことで、活動の活性化を目指す
- ・ICT等の活用により、地域を超えて協力し合える仕組みづくりを目指す
- ・ICT等の活用により、事務的作業の効率化などを促進する
- ・現在進んでいる会員獲得や都道府県連盟運営の成功事例をマネ（模倣）する文化の醸成をはかり、さらに、国内外のガールスカウトの取り組み、他団体の事例からの学びも促進する

各テーマに関する取り組みについて

1. ねばならない意識からの脱却

「〇〇でなければいけない」という硬直した意識は活動の窮屈さにつながります。価値観が短い期間で変化していく現代社会において、ガールスカウト運動に関わる少女と女性たちが、誰もが楽しく、主体的にかかわれるように、多様な価値観をもとに柔軟に変化していくことは、組織が継続するうえで重要なポイントとなります。

従来、当然のように押印し書面で手続きしていたことについても、関係各所の事務作業軽減の観点から諸届における印鑑の扱いの基準と運用を見直し、多くの申請（手続き、表彰等）の押印欄を廃止するとともに、各種申し込みのオンライン化を図りました。また、現代の状況に合わせた規程の改定をおこないました。

2021年度から打ち出した「ねばならない意識からの脱却」は少しずつ浸透し、都道府県連盟でも他連盟などの良い事例を取り入れ、さまざまな工夫に取り組み始めた一年となりました。

2. 現代社会において、少女・女性が必要とする教育を、年代に合わせて適切に（質・量）提供する

対面での活動も増えてきた中、コロナ禍より活動の中心においていたオンラインを上手に活用することで活動の幅が広がり、さまざまな方法で教育活動を推進することができました。特にシニア・レンジャーを対象とした「ガールスカウトカフェ」は6回実施され、述べ428人（新年度シニア20人、シニア180人、レンジャー112人、ユース年代19人、その他年代97人）が参加しました。ガールスカウトカフェは毎回異なるテーマで実施され、参加者間での情報共有や交流も進み、また近い年代であるユース年代の会員から直接話を聞くことにより、海外派遣や他県連盟の活動への興味・関心を高める機会となりました。

持続可能な開発目標（SDGs）の目標5「ジェンダー平等を実現しよう」を達成するために毎年実施している「ジェンダーに関する調査報告」については、企業および他団体からの関心も高く、調査内容を報告する機会が主催事業を含め6回ありました。調査対象年齢と同年代である当事者の声として、調査結果から見えてきた「ジェンダー」に関わる問題を伝える機会が増えたことは、継続的に調査をおこなってきた大きな成果と言えます。また、地区シニア部門事業では、テーマを「自分のからだを知ろう、守ろう」とし、自らの体のことを理解することは、自分の幸せと他者の幸せにつながるということを知る（Well-beingについて知る）機会となり、「ジェンダー平等」を実現するための確かな一歩となりました。GEバッジ（Gender Equalityバッジ）プログラムへの取り組みも普及し、昨年度から始まったオンラインプログラムについては、昨年比30%以上が取り組みを進めており、合わせて今年度より開始した対面のプログラムについても着々と取り組みが進みました。GEバッジプログラムはアドボカシーにも触れていることから、少女自身がより幸せな社会と未来の実現のために考え行動する機会が増えた一年となりました。

合わせて、指導者自身の学びの支援のために、オンラインでの役割に応じたミーティングなどを実施し、全国の指導者が活動時の悩みを共有したり、活動のアイデアを共有したりすることにより、各地域での活動活性化につなげることができました。

GEリーダー育成研修は4回開催し、315人がGEリーダーとなりました。指導者がSDG5の理解を深めることは、これからの少女の活動を支えていく上で必要不可欠なことから、今後も理解が深まるよう、進めてまいりたいと考えます。

2021年度におこなわれた国際ガールズメッセ以来、ユース年代がさまざまな機会に参画できるような取り組みを継続的に進めてきましたが、このたびSlack（オンラインコミュニケーションツール）を活用し、ユース年代が主体に活動できる場を作ることができました。現在、約70人が登録し、さまざまな活動グループができ、活動活性化の一助となっています。今後はより多くのユース年代の会員が参加し、都道府県連盟での活動を活性化していくことにつながると期待しています。

教育プログラム・指導者養成制度の総合見直し委員会では、現プログラムに不足している要素を補えるよう検討を開始しました。

3. 現代に適した組織の運営や情報活用をおこなう

現代に適したガールスカウトの組織のありかたについて、戦略検討委員会（組織財政中長期検討委員会）において検討を始めると共に、都道府県連盟および団の負担軽減のためすぐに取り組める課題について、同戦略委員会の中短期課題解決部会が提案およびパイロット事業の実施、システムの導入をおこないました。

社会背景や会員・保護者の多様化から、団や都道府県連盟のかかえる課題も現代化しています。今年度より実施した役職別情報交換会や連盟長連絡会では全国の都道府県連盟理事と監事が集い、悩みを分かち合いアイデアを得ることにより、所属連盟について改めて見つめ直し考え、ガールスカウト運動をより広めていくためにどのような取り組みを進めると良いかを考える機会とすることができました。連盟長が日常的に情報交換をおこなえる場として、連盟長用のSlackを開設しました。

また、全国的に会議や事業におけるオンラインシステムを活用し、都道府県連盟、団、会員が直接、情報共有する機会も増え、スピード感を持って一緒に考え取り組むことができる環境を作ることができました。都道府県連盟の相談にもオンラインで対応をおこないました。

アジア太平洋地域会議もオンラインで実施されました。オブザーバーが会議の様子を連盟長はじめ多くの会員に伝えたことにより、一人ひとりがアジア太平洋地域の一員であることを再認識する機会とすることができました。

オンライン会議システムの定着は、即時性や交通費の削減、遠隔地からも参加できるメリットの一方で、対面よりも会議回数が増え、またその多くが夜間である現状から、会議の短時間化等、改善が必要と考えます。

日本連盟会員データベースを活用し、団と都道府県連盟における表彰対象者の申請事務の負担を軽減することができました。今後はより一層、関係各所の事務作業の軽減と会員への情報提供がスムーズにおこなえるよう検討を進めます。

4. 運動の仲間の減少を止める

新型コロナウイルスの流行により、3年間にわたり新入会促進のための活動に制限があった影響が大きく、会員数は依然減少を続けましたが、減少率はわずかに緩和され、225カ団において前年度より会員数が増えました。広報ツールの貸し出し利用が増加していることから、全国の各地域で入会促進活動や地域イベント出展参加が復活していることがうかがえます。また、レンジャー部門の前年度比が1994年度以来のプラスとなったことは、ガールスカウトカフェをはじめとする年長部門の参加の機会が増え、中学卒業後の退会率が下がっていることの結果とも言えます。

団の活性化のためには団内での運営者、リーダー、保護者が団の未来を共に考え、慣例的なやり方でなく効果的な方法で取り組むことが必須であり、その方法を示した『団活動ヒント集』を普及する取り組みをおこないました。『団活動ヒント集』の印刷および「『団活動ヒント集』を活用した団運営の進め方」をテーマに 트레이ナーセミナーを実施し、団に所属する一人ひとりが運営の視点をもってガールスカウト運動に関わっていく必要がある意識を高めることができました。

ガールスカウトが、「すべての少女と女性が自分らしく生きられる社会」を目指して行動する女性を育てる団体として、社会にインパクトをより強く与えるためにも、仲間を増やすことは喫緊の課題です。『団活動ヒント集』が活用され、運動に関わる一人ひとりが主体的にかかわることで、仲間の減少を止めていけると信じています。

5. 社会に対するアピール力を高める

2019年から実施している女子高校生・女子大学生年代を対象としたジェンダーに関する調査と報告書を2022年度も発行しました。他団体・外部からの引用や登壇の依頼が多数あり、ガールスカウトが少女と女性の声を社会に届ける団体であることのアピールが進んでいます。社会に対し、ガールスカウトが、少女と女性が自分らしく生きるためのエンパワメントをする団体であることを伝え続けた結果、新たな助成金（マイクロン財団、国際青少年連合IYFなど）の獲得・拡大にもつながりました。助成金は2023年度事業に活用される予定です。

2022年度は主にInstagramを中心とした戦略的なコミュニケーションをおこなうためのチームを立ち上げました。発信内容の改善を進めた結果、フォロワー数3,172人となり昨年度より529人増加しました。ジェンダー平等の実現に向け、社会の意識も少しずつ前進しているなか、ガールスカウトが持っているリソースを適切に発信し、社会に影響を与えることをこれからも推進していきます。

会員全体でSNS社会に対応しガールスカウトのアピールを進めるため、団の発信力強化にも努めました。広報研修会を2回開催し、戦略的な広報の在り方、運用方法、リスクマネジメント、魅力的な発信について28道府県59人に伝えました。

2023年度は戦略計画の最終年として、より一層会員の力を発揮できるように、運営方法や財政基盤の構築を進め、少女たちの未来のために持続可能に活動できるように進めていきます。

日本のガールスカウト運動 100年の取り組みについて

2020年の日本のガールスカウト運動100年に向け、2016年には100周年事業5つのプランを発表し、その取り組みを進めました。100年の年が東京オリンピック2020の開催と重なったことから、2021年度中までの開催を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、実施方法などの変更が余儀なくされましたが、挑戦し続ける運動であるガールスカウト運動の担い手として、さまざまな工夫がなされ、次の100年に向けて力強く前進することができました。

計画された5つのプランの成果は次のとおりです。

1. 100万人とつながるキャンペーン

ガールスカウトの仲間を増やすために、その魅力を100万人に伝えるための取り組みを進め、2016年から2019年の4年間で約200万人とつながることができました。

2. コミュニティアクション チャレンジ100

プロジェクトマネジメントの理解を深め、社会を変えるチェンジエージェントを増やすために取り組みを進めました。2019年1月からは対象を広く一般へ開き「コミュニティアクション チャレンジ100アワード」として再スタートし、同年10月から「コミュニティアクション チャレンジ100アワード表彰式」を開催しました。取り組みを

始めてから324件のプロジェクトがエントリーされ、39件のプロジェクトが表彰されました。

3. 100年誌『日本のガールスカウト運動100年の挑戦』

140人の先輩諸姉から現役世代の物語を収録し、公立図書館1,385件、大学図書館513件へ寄贈し、多くの人々にガールスカウトの歴史に触れていただく機会をつくることができました。

4. ファンドレイジング

2013年9月からマンスリー寄付である「みらい募金」を募集し始め、2023年3月末には寄付金額は28,315,479円となりました。2016年から周年事業に向けた取り組みを始め、得られた助成金は32,837,961円、参加費等収入は18,087,500円で、総収入は、79,240,940円でした。当初、トレフォイルファンドを周年事業費として取り崩すことを予定していましたが、取崩をおこなうことなく事業を終了することができました。

2016年から2021年の間に賛助会員トレフォイルに新規入会またはアップグレードにより、2,220万円の協力がありました。

100周年事業は、寄付金、助成金、参加費で賄うことができましたので、90周年事業終了時の約2,000万円の周年事業積立資産は、次の周年事業のための資金となります。

5. 100周年記念イベント

①国際ガールズメッセ

『わたしの声から広がる世界』をテーマとし、SDGsの「目標5：ジェンダー平等を実現しよう」達成に向けて、少女と女性が「よりよい社会」を目指して取り組み、社会に向けて発信していけるよう実施することができました。

コロナ禍の影響により、2020年度はプレイベントとして、2021年度は本イベントとして2年にわたり、オンラインでの開催となりましたが、コロナ禍においても国際的かつ全国的な組織であることを生かし、テーマにふさわしい会を開催することができました。国際ガールズメッセを全国各地で盛り上げるために募ったユースメッセンジャー107人の活躍により、全国規模でオンラインによる国際交流ができました。ユースメッセンジャーの活躍は、その後の日本連盟事業や都道府県連盟の事業でユース年代が積極的に関わる契機となりました。

②インターナショナルキャンプ

『Discover 100 WOW (100 = one oh oh = wow)』をテーマとし、その地域をDiscover、全国、世界の参加者から、異なる文化をDiscover、知らなかった自分をDiscoverできるよう、2022年8月に全国7カ所で実施することができました。コロナ禍のため、海外からの現地での参加者はありませんでしたが、全国から559人が集い、4泊5日を過ごしました。4日目におこなったオンラインオープンイベントには854人の参加がありました。期間中、数回、海外とオンラインでつながり、国際交流を楽しんだほか、海外で活躍している先輩からの話に刺激を受けるなど、今後の活動につながる様々な体験をすることで一人ひとりが大きく成長する機会となりました。全国にできた仲間の輪を大切にそれぞれの地域で活躍することに期待しています。

適切な手続きを経ない事業者への送金について

1 事案の概要

当事業年度において、事務局職員が適切な手続きを経ずに、外部事業者へ送金をおこなっていたことが発覚しました。都道府県連盟の皆様をはじめ多くの関係者の方々へ多大なご迷惑とご心配をおかけすることとなり、心よりお詫び申し上げます。

2 当法人における対応

本件に関しては、当法人においてこれまでに経験したことの無い不適切事案であり、その重要性に鑑みて、当法人と利害関係のない外部の弁護士による内部調査委員会を設置し、事案の全容解明及び原因分析に加え、有効な再発防止策の提言をお願いいたしました。

3 今後の予定

現在、内部調査委員会による調査が続いていますが、調査結果がまとまり次第、改めてご報告させていただきます。そして、同委員会の報告及び提言を踏まえ、抜本的な再発防止を進めると共に、関係者の適正な処分を検討・実施し、信頼回復に向けコンプライアンスを最重視したガバナンス体制の再構築に取り組んでいく予定です。

事業実施報告

日本のガールスカウト運動100周年事業関連

事業名	インターナショナルキャンプ “Girls Can Change the World” Camp
実績	<p>事業目的： ＊日本のガールスカウト運動100周年をお祝いする ＊参加する少女、女性が「よりよい社会」をつくるために、自身ができることを発見し、SDGs目標5の達成のための行動を促進する</p> <p>後援：文部科学省、ESD-J、ESD活動支援センター 助成：国立青少年教育振興機構子どもゆめ基金、霞会館 テーマ：Discover 100 WOW (100 = one oh oh = wow) 開催地：全国7会場 岩手県・長野県・北海道・群馬県・広島県・長崎県・奈良県</p> <p>開催期間：Term1：8月4日（木）～8月8日（月）4泊5日 Term2：8月11日（木・祝）～8月15日（月）4泊5日 Term3：8月18日（木）～8月22日（月）4泊5日</p> <p>参加者人数：中学生328人・高校生年代231人（45都道府県） スタッフ人数：101人（30都道府県連盟） 参加海外連盟数：13連盟</p> <p>【岩手山会場】 期間：Term1 会場：国立岩手山青少年交流の家（岩手県滝沢市） 後援：岩手県教育委員会、滝沢市教育委員会 協力：ガールガイドミャンマー連盟、ガールスカウト岩手県連盟 参加人数：シニア39人、レンジャー46人（合計85人） スタッフ：15人</p>
	<p>【戸隠会場】 期間：Term1 会場：戸隠ガールスカウトセンター（長野県長野市） 後援：長野県教育委員会、長野市教育委員会 協力：公益財団法人ながの観光コンベンションビューロー、 中北薬品株式会社、鶴木商店、ガールスカウト長野県連盟 参加人数：シニア58人、レンジャー32人（合計90人） スタッフ：19人</p>
	<p>【会場】 期間：Term2 会場：国立大雪青少年交流の家（北海道上川郡美瑛町） 後援：北海道教育委員会、旭川市教育委員会、美瑛町教育委員会</p>

	<p>協力：ガールスカウト北海道連盟 参加人数：シニア32人、レンジャー34人、一般高校生2人（合計68人） スタッフ：15人</p>
	<p>期間：Term2 会場：国立赤城青少年交流の家（群馬県前橋市） 後援：群馬県教育委員会、前橋市教育委員会 協力：ガールスカウト群馬県連盟 参加人数：シニア56人、レンジャー32人、一般高校生年代1人（合計89人） スタッフ：15人</p>
	<p>期間：Term2 会場：国立江田島青少年交流の家（広島県江田島市） 後援：広島県教育委員会 協力：広島大学、マイクロン財団、ガールスカウト広島県連盟 参加人数：シニア52人、レンジャー36人、一般高校生年代2人（合計90人） スタッフ：14人</p>
	<p>期間：Term2 会場：国立諫早青少年自然の家（長崎県諫早市） 後援：長崎県教育委員会、諫早市教育委員会 協力：株式会社菓秀苑森長、ガールスカウト長崎県連盟 参加人数：シニア37人、レンジャー20人（合計57人） スタッフ：16人</p>
	<p>期間：Term3 会場：国立曾爾青少年自然の家（奈良県宇陀郡曾爾村） 後援：宇陀市教育委員会、曾爾村教育委員会 協力：NPO法人日本茶インストラクター、中尾農園、株式会社柿の葉すし本舗たなか、ガールスカウト奈良県連盟 参加人数：シニア52人、レンジャー28人（合計80人） スタッフ：15人</p>

事業名	100周年バッジ
実績	622枚（累計8,285枚）

事業名	100周年に向けた資金調達活動（ファンドレイジング）
実績	100周年事業への寄付 1,000,000円

事業名	100周年特設ホームページ（100周年周知拡大）
実績	新規情報を随時更新 Instagramでジェンダー平等実現100のコト、世界のあいさつ100を掲載 サイトビュー数：42,437PV（昨年度比5,484増）

事業名	100周年記念表彰
実績	ガールスカウト運動への顕著な支援をおこなった、ならびに日本のガールスカウト運動 100周年記念事業への支援をいただいた個人・団体・企業・機関および100周年アンバサダーへ、「日本のガールスカウト運動100周年記念表彰」として感謝状を贈呈した。 贈呈件数：29件

教育プログラム

事業名	SDGsへの取り組み
実績	SDGsバッジ取得数 1,430個

事業名	SDG5の促進
実績	<p>Stop the Violence キャンペーン関連プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ジェンダーの不平等に起因する問題について理解し、自らの権利を学び、同年代同士で、問題解決のために行動を起こせるようにする。 また、自分や友達が差別や暴力に直面したときにそなえ、どうしたらよいか学ぶ。 バッジ取得数：VAVバッジ 80枚（プログラムは2021年度に終了） 『18-25歳対象「ジェンダー」に関する調査報告書2022』をユース実行委員会を立ち上げ製作（協賛：マイクロン財団） 8月マイクロン社 社員対象に調査結果報告 10月ガールズメッセにて、調査結果報告
	<p>Free Being Me (FBM) 第2弾</p> <ul style="list-style-type: none"> プログラムを提供できる指導者はGEリーダー育成研修で養成し、実施できる指導者数を増やすことによりプログラムの促進をおこなった。 バッジ取得数：大好きなわたしバッジ176枚、FBM行動編バッジ110枚 ダヴとの協働イベントの実施（30頁 他団体との連携参照）
	<p>GEバッジプログラム 普及促進</p> <ul style="list-style-type: none"> GEリーダー育成研修（オンライン）4回開催 参加人数 313人 GEミーティング（オンライン）2回開催 参加人数 82人 「わたしとみんな」GEバッジWEBイエローバッジ 1,016枚 「わたしとみんな 行動編」GEバッジ対面オレンジバッジ 266枚 「me and them」GEバッジWEBミントバッジ 587枚 「me and them 行動編」GEバッジ対面グリーンバッジ 188枚 Step1 累計取り組み数 3,811回（YouTube再生数）

事業名	ガールズメッセ
実績	<p>テーマ「わたしの声から広がる世界」</p> <p>期日：10月16日（日）</p> <p>内容：第1部 CAC100アワード・B-Pアワード受賞式および活動発表、2022ジェンダーに関する18～25歳調査報告</p> <p>第2部 トークセッション「法律ってなんだろう。ジェンダーの不平等を解決できる法律をみんなで考えてみよう」</p> <p>講師：弁護士 津久井進氏/ゲスト：議員 石井苗子氏</p> <p>参加者：30人</p>

事業名	コミュニティアクション チャレンジ 100アワード
実績	<p>第4回受賞チーム活動報告 ガールズメッセにてプロジェクト報告</p> <p><受賞プロジェクト> コミュニティアクション賞 2グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ名 Pitty プロジェクト名「Let's help somebody world with a memory」 ・グループ名 大口明光学園に集いし5人の有志たち プロジェクト名「生理の貧困をなくそう！」 <p>チャレンジ賞 3グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ名 CHERISH! プロジェクト名「わたしとからだプロジェクト」 ・グループ名 帝塚山大学法学部「専門基礎演習B（末吉ゼミ）」 プロジェクト名「『ジェンダーギャップを考えるカルタ』の制作を通じたSDGsの目標5『ジェンダー平等を実現しよう』の達成」 ・グループ名 アマテラス・ひなたgirls プロジェクト名「ココカラテラス！！パープルリボンキャンペーン」 <p>日能研賞 1グループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ名 パープルジュニア プロジェクト名「パープルリボン大作戦」 <p>第5回応募締切（2023年3月31日）応募件数 19件</p>

事業名	年少部門対象事業
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・STEMバッジプログラムの開発 ・防災科学技術研究所との連携事業

事業名	地区シニア部門事業			
実績	全国7地区において、「自分のからだを知ろう、守ろう」をテーマに開催 参加者総数：308人			
	地区（担当連盟）	期日	会場	参加者
	北海道・東北地区 （山形県連盟）	11月3日（木・祝）	オンライン	ジュニア 2人 シニア 11人 レンジャー 9人 指導者 26人 合計 48人

北関東地区 (栃木県連盟)	9月18日(日)・ 19日(月・祝)	オンライン	シニア 20人 レンジャー 16人 指導者 21人 合計 57人
南関東地区 (山梨県連盟)	10月9日(日) ～10日(月・ 祝)	山梨県立八ヶ 岳少年自然の 家	シニア 35人 レンジャー 0人 指導者 22人 合計 57人
北陸・東海地区 (三重県連盟)	8月21日(日)	オンライン	シニア 22人 レンジャー 11人 指導者 16人 合計 48人
近畿地区 (和歌山県連盟)	2023年1月21日 (土)～22日 (日)	和歌山市立青 少年国際交流 センター	シニア 10人 レンジャー 0人 指導者 18人 合計 28人
中国・四国地区 (広島県連盟)	10月15日(土) ・16日(日)	オンライン	シニア 6人 レンジャー 2人 指導者 18人 合計 26人
九州・沖縄地区 (長崎県連盟)	11月26日(土) ～27日(日)	日吉自然の家	シニア 25人 レンジャー 0人 指導者 19人 合計 44人

事業名	レンジャー年代 : 全国事業 (オンライン)
実績	<p>レンジャーonline 事業【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前課題 6月下旬～7月10日(日) ・当日 7月17日(日)・7月18日(月・祝) 2日間 (オンライン) ・参加者(レンジャー) 11 都道県連盟 21 人 ・参加者(成人会員) 7 都道県連盟 7 人 <p>ジェンダーに関する社会課題を理解する。問題解決の方法を学ぶ。 GEバッジ対面グリーンの取得が可能。</p> <p>レンジャーonline 事業【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者(レンジャー) 12都道県連盟 12人 ・参加者(指導者) 12都道県連盟 12人

	<p><活動期間> 事前準備期間 ① 9月17日（土）～9月30日（金） online ミーティング 1st. 10月1日（土） 事前準備期間 ② 10月2日（日）～10月23日（日） 事前準備期間 ③ 10月31日（月）～11月12日（土） online ミーティング 2 nd. 11月13日（日） online ミーティング 3 rd. 2023年1月14日（土） online ミーティング Final 2023年3月21日（火・祝）</p> <p>ジェンダーに関する社会課題を解決するプロジェクトを立ち上げたいレンジャーが集い、地域でアドボカシー活動をおこない、社会に変化をもたらすことを目的に活動した。定期的に進捗共有することで、活動アイデアのヒントを得ることができ、モチベーションアップに繋げることができた。</p>
--	--

事業名	B-Pアワード
実績	受賞：2プロジェクト2人 プロジェクト名： 世界の海をCleanに 世界・ジェンダー・夢

事業名	ガールスカウトカフェ（オンライン）
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ガールスカウトカフェvol. 11 インターナショナル編 期日：5月22日（日） 参加者：163人（シニア72人、レンジャー35人、ユース年代6人、26歳以上50人） ゲストスピーカー：3人（アメリカ、香港、ニュージーランド） 担当：100周年記念キャンプ全体実行委員会 ・ガールスカウトカフェVol. 12 トラベル 期日：7月23日（土） 参加者：56人（シニア38人、レンジャー18人 ユース年代（ファシリテーターとして）14人） 担当：教育・指導者委員会 ・ガールスカウトカフェvol. 13 インターナショナル編 期日：11月13日（日） 参加者：66人（シニア27人、レンジャー21人、ユース年代4人、26歳以上14人）

	<p>ゲストスピーカー：2人（アメリカ、香港） 担当：100周年記念キャンプ全体実行委員会</p> <p>・ガールスカウトカフェVol. 14 全国にガールスカウトの仲間を作ろう！ ユース・シニア・レンジャーでみんなのスキ♡を集めにいこう！ 期日：12月18日（日） 参加者：56人（シニア13人、レンジャー13人、ユース年代6人、26歳以上24人） 担当：教育・指導者委員会</p> <p>・ガールスカウトカフェVol. 15 ～第14回AP地域会議報告～ 期日：2023年2月26日（日） 参加者：23人（シニア9人、レンジャー10人、ユース年代3人、40代以上1人） 担当：第14回AP地域会議オブザーバー</p> <p>・ガールスカウトカフェvol. 16 インターナショナル編 期日：2023年3月4日（土） 参加者：64人（4月からシニアになるジュニア20人、シニア21人、レンジャー15人、26歳以上8人） ゲストスピーカー：3人（北海道、埼玉県、静岡県） 担当：100周年記念キャンプ全体実行委員会</p>
--	---

事業名	国内交流事業
実績	申請数：1件

事業名	国際理解支援事業
実績	<p><海外研修渡航費補助> 1県連盟 1件 茨城県連盟（申請・渡航のみ：助成は2023年度）</p>
	<p><国際紹介状の発行> 12件（県連盟・団・協議会：1件、個人〔留学など〕11件）24人</p>
	<p><国際交流申請> 3件（アメリカ連盟ウェストパシフィックとの交流）</p>
	<p><招へい申請> 0件</p>

事業名	Greener × Greener II
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平和のための寄付金 16,900円 ・ Greener×Greener II バッジ取得数 301枚

事業名	防災・減災教育
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災・減災教育の促進： 防災マイスターバッジ 725個 ・ KIZUNA Day取り組み促進 全国各地で実施 防災科学技術研究所との協働企画 「KIZUNA Day 特別イベント『親子防災科学教室』」の実施 期日：2023年3月18日（土）（対面・オンライン） 会場：ガールスカウト会館 参加者：76人（25組）

事業名	ワールドシンキングデイ
実績	<p>テーマ：私たちの世界、私たちの平和な未来 ～環境問題と平和～ 期日：2023年2月22日（水）周辺で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ WAGGGS発行活動パックの翻訳版の発行 ・ トレーナーセミナーの実施（19頁 トレーナー対象トレーニング参照） ・ 特設ウェブサイトの開設 FacebookとTwitterへのハッシュタグ投稿から、世界中のつながりを感じられる活動を集め、発信した ・ 世界連盟への寄付 34頁「世界連盟への寄付」参照

事業名	戸隠ガールスカウトセンターを活用した教育の実践
実績	<p>期日：4月29日（金・祝）～11月7日（月） （31・32頁 戸隠ガールスカウトセンターの管理運営参照）</p>

事業名	教材等の出版・販売
実績	<p>新規発行物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2023ワールドシンキングデイ活動パック「私たちの世界、私たちの平和な未来」～環境問題と平和～ ・ 「18-25歳対象ジェンダーに関する女子高校生調査報告書2022」

委員会名	教育・指導者委員会
実績	6回開催（オンライン）+事業担当ごとに会議を開催（オンライン）複数回

委員会名	SDG5推進委員会
実績	13回開催（オンライン・対面1回）＋事業ごとに会議を開催（オンライン）

成人のトレーニング

事業名	トレーナー対象トレーニング
実績	<p>トレーナーセミナー（戸隠ガールスカウトセンター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーション <p>期日：9月17日（土）～19日（月・祝） 参加者：14都道府県連盟23人</p>
	<p>トレーナーセミナー（オンライン）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『団活動ヒント集』を活用した団運営の進め方 <p>期日：6月25日（土）、7月1日（金） 参加者：35都道府県連盟103人 <ul style="list-style-type: none"> ・トレーナーに必要な伝える力～理解編～ <p>期日：11月12日（土）、11月13日（日） 参加者：36都道府県連盟88人 <ul style="list-style-type: none"> ・ワールドシンキングデイ2023 <p>期日：12月23日（金）、12月25日（日）2回、12月28日（水） 参加者：45都道府県連盟178人 <ul style="list-style-type: none"> ・トレーナーに必要な伝える力～実践編～ <p>期日：2023年2月24日（金）、2023年2月25日（土）2回 参加者：30都道府県連盟81人</p> </p></p></p>
	<p>トレーナーの単元 I（オンライン）</p> <p>期日：12月23日（金）～2023年3月31日（金） 取得者数：150人</p>

事業名	GEリーダー育成研修
実績	<p>全4回開催</p> <p>期日：6月26日（日）、9月24日（土）、12月9日（金）、3月18日（土） 会場：オンライン</p> <p>申込者：341人 参加者：322人 修了者：315人</p>

事業名	リーダーへの支援
実績	指導者研修（オンライン） ・性の多様性研修 期日：2023年2月11日（土・祝） 参加者：17都道府県36人

事業名	ガールスカウト 트레이ナー認定講習会・審査会
実績	期日：2023年1月8日（日）～9日（月・祝） 会場：ガールスカウト会館 参加者：プログラムトレーナー10人

事業名	プログラムトレーナー認定審査会
実績	期日：2023年1月7日（土）（オンライン） 参加者：トレーナー候補者4人

事業名	トレーナー養成・育成勉強会
実績	期日：8月27日（土）（オンライン） 参加者：21都道府県連盟40人

事業名	海外研修本部派遣（成人）
実績	第14回アジア太平洋地域会議（オンライン） 期日：8月10日（水）～14日（日） 参加者：正代表2人、オブザーバー3人
	第14回アジア太平洋地域会議 若い女性のための事前イベント（オンライン） 期日：8月6日（土）～7日（日） 参加者：1人（第14回アジア太平洋地域会議オブザーバー）
	ジュリエット・ロー セミナー2022（オンライン） 期日：12月2日（金）～11日（日） 参加者：2人
	WAGGGSアドボカシーチャンピオン2023 活動期間：2023年1月～（18カ月間） 参加者：1人

事業名	リーダー養成講習・指導者研修
期日	年間
実績	リーダー養成講習 231回（44都道府県連盟で開催） 指導者研修 391回（403単位）（44都道府県連盟で開催）

事業名	リーダー養成講習・指導者研修 指導者派遣
実績	派遣なし

事業名	トレーナーへの支援
実績	ホームページ「トレーナー向け情報」随時更新 トレーナー用Slack運営

委員会名	成人トレーニング委員会
実績	11回開催（オンライン） 1回開催（対面）

委員会名	戦略委員会：教育プログラム・指導者養成制度の総合的見直し委員会
実績	18回開催（オンライン） ・ガールスカウト教育で育む力の確認 ・現在のプログラムで不足している分野の確認 ・指導者の現状把握および、必要な力を確認

組織と運営

事業名	連盟長会議
実績	期日：11月19日（土）・20日（日）（オンライン） 参加者：都道府県連盟理事・監事・事務局担当者 ①11月19日 247人、②11月20日 216人 日本連盟理事・監事 11人、委員2人、事務局4人 計17人会員の聴講参加 31人 ※オンラインプログラム「姉妹への100年のメッセージ」 講師：内閣府経済社会総合研究所次長 林伴子氏 参加者：連盟長会議参加者および 一般申し込み 約30人

事業名	新任連盟長研修
実績	期日：6月18日（土） 会場：ガールスカウト会館 参加者：新任連盟長 17人（うち1人は代理 副連盟長）

事業名	連盟長連絡会
実績	期日：2023年2月23日（木・祝）（オンライン） 参加者：都道府県連盟連盟長・副連盟長等89人（44都道府県連盟）

事業名	都道府県連盟への支援
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県連盟理事とのオンラインミーティング（運営面相談） ・ 連盟長Slackの開設、運営 ・ 組織拡充のための理事等派遣 オンライン：埼玉県連盟、新潟県連盟、中国・四国地区

事業名	広報研修
実績	団のSNS担当者を対象に、SNSの現状、運用、リスクと安全、効果的な発信方法について学ぶ研修をおこなった。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第1回（全3回）（オンライン） 期日：7月2日（土）、7月9日（土）、7月16日（土） 参加者：36人（22道府県連盟） サポーター：9人（8都県連盟） ・ 第2回（全3回）（オンライン） 期日：2023年1月21日（土）、2023年1月28日（土）、 2023年2月4日（土） 参加者：23人（14道府県連盟） サポーター：6人（6府県連盟）

事業名	役職別情報交換会
実績	期日：9月11日（日）（オンライン） 参加者：都道府県連盟理事・監事 ①午後の部79人②夜の部134人 参加者 207人

委員会名	組織・運営アドバイザーグループ
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新任連盟長研修のプログラム担当 ・ 連盟長会議、役職別情報交換会の運営補助 ・ 県連盟理事とのオンラインミーティング（運営面相談）の一部に参加

会議名	顧問会
期日	実施なし

会議名	評議員会
実績	期日：12月10日（土）（ガールスカウト会館・オンライン併用） 参加者：評議員8人、日本連盟理事10人、日本連盟監事1人

会議名	理事会・理事連絡会
実績	理事会 7回（オンライン・ガールスカウト会館） 理事連絡会 6回（オンライン・ガールスカウト会館）

会議名	理事研修
実績	期日：9月3日（土）～4日（日） 会場：戸隠ガールスカウトセンター

会議名	監査
実績	5月7日（土）（オンライン）

会議名	第94回定時総会
実績	期日：5月28日（土） 会場：ガールスカウト会館（オンラインでの議決権行使）

事業名	第14回アジア太平洋地域会議 代表派遣
実績	第14回アジア太平洋地域会議 若い女性のための事前イベント 期日：8月6日（土）～7日（日） 会場：オンライン 第14回アジア太平洋地域会議 期日：8月10日（水）～14日（日） 会場：オンライン（招へい連盟：タイ連盟）

事業名	地域支援事業
実績	実施なし

委員会名	戦略委員会：新しいガールスカウト活動のあり方を考える会
実績	5回開催（オンライン） <ul style="list-style-type: none"> ・特別個人会員の登録促進策を検討 ・ボーイスカウトとの連携協力について検討

委員会名	戦略委員会：財政・組織中長期戦略検討委員会
実績	10回開催（オンライン） <ul style="list-style-type: none"> ・組織的課題の確認と解決策の検討 ・財政的課題の確認と解決策の検討

委員会名	戦略委員会：財政・組織中長期戦略検討委員会 中短期課題解決部会
実績	部会 6回、チーム会議 13回（オンライン） <ul style="list-style-type: none"> * 団、都道府県連盟の負担軽減のための施策 <ul style="list-style-type: none"> ・定年後のトレーナーによるキャンプ支援（モデル地区実施）の検討 ・ガールスカウトが大切にしていることを会員に伝えていく方法の検討 ・日本連盟表彰申請における県連盟の作業負担軽減に向けた検討 * レンジャー、ユース年代の活動促進に向けた施策 <ul style="list-style-type: none"> ・オンライン参加が可能な研修情報等のウェブサイト掲載 ・ユース年代の活動の情報共有と活性化のための方法を検討 「ユースラック」（ユース対象オンラインプラットフォーム）の開設、戸隠ワクトキプログラムインターンの実施 ・レンジャーが参加できる機会・活動の多様化について検討

事業名	『Girl Scouts' News』の発行
実績	年4回、全会員対象に発行 vol. 11（PDF）紙媒体申込541部 vol. 12（紙媒体）26,000部 vol. 13（PDF）紙媒体申込1,132部 vol. 14（印刷物）25,000部

事業名	事務局の強化
実績	業務分野ごとの研修受講

会員

事業名	おやこでチャレンジ（秋入会促進事業）
	春の体験集会（春入会促進事業）
実績	225カ団が会員数を前年度末より増加

事業名	ガールスカウトの日の促進
実績	5月22日（土）を中心として5月に、全国で地域や一般の方に「私たちの世界、私たちの未来」をテーマとした活動をおこない、各団のSNSや日本連盟の特設サイトにその様子を掲載した。

事業名	会員増プロジェクト
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・会員増のための一斉キャンペーン（ガールスカウトの日、おやこでチャレンジ、春の体験集会）の検討 ・「お外でリアル体験！そとチャレラリー2022」のツール作成と提供 ・『団活動ヒント集 再編版』の印刷

事業名	会員会費助成
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・児童養護施設在籍の少女会員への支援：会費半額助成 31人（5カ団） ・被災会員への支援：実施なし

事業名	会員継続の支援
実績	チラシの作成配布 <ul style="list-style-type: none"> ・小学生6年生およびその保護者、中学3年生、高校2年生年代への継続呼びかけチラシ ・転居保護者向けチラシ、転居者対応についての団向けチラシ
	大学等入学試験にかかる推薦書、活動証明書の発行 <ul style="list-style-type: none"> ・56件（20都府県連盟、43人）

事業名	会員登録
実績	年間（特別個人会員の登録を含む）

事業名	会員データベースの活用
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・日本連盟表彰のうち永続奉仕章（成人会員）、団永続章、都道府県連盟永続章について、当年度より日本連盟の会員データベースの登録情報から受章者を決定 ・県連盟のリクエスト（会員数増加取り組みのため）によるデータ提供

事業名	会員増のためのデータ分析
実績	実施なし

事業名	日本連盟 表彰	
実績	功労章	桐章 8人、菊章 10人、梅章 20人
	永続奉仕章	70年 2人、60年 6人、50年 56人、40年 134人 30年 214人、25年 260人、20年 288人、10年 618人
	団永続章	70年 6カ団、60年 30カ団、50年 36カ団、40年 46カ団 30年 10カ団、25年 7カ団、20年 4カ団、10年2カ団
	連盟永続章	50年 4県連盟
	ガールスカウト活動賞	授章なし
	感謝状	10件

社会との関係

事業名	社会への発信のための全国活動
	<p><春の体験集会> 3月～4月の体験が増える時期に全国で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特設ウェブサイトの開設 （「#春の体験集会」をつけて各地の活動を集約するウェブサイト） <p>期間：3月7日（月）～5月8日（日） SNSによる有効投稿数：99件</p>
実績	<p><ガールスカウトの日> 5月22日（土）を中心として5月に全国で実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特設ウェブサイトの開設 （「#ガールスカウトの日」をつけて各地の活動を集約するウェブサイト） <p>期間：5月10日（火）～6月4日（土） SNSによる有効投稿数：153件</p>

<p><ガールスカウト夏チャレ> 夏の体験活動の様子を社会に発信 ・特設ウェブサイトの開設 (「#ガールスカウト夏チャレ」をつけてチャレンジしているガールスカウトの姿を集約するサイト) 期間：7月15日(金)～8月31日(水) SNSによる有効投稿数：340件</p>
<p><女性に対する暴力をなくす運動> ・ガールスカウト会館のパープル・ライトアップおよびパープル・ライトアップ施設のSNSへの掲載 期間：11月12日(土)～11月25日(金)</p>
<p><ワールドシンキングデイ> 2月22日(水)を中心として全国で実施 ・特設ウェブサイトの開設 (世界とつながるガールスカウトの姿を集約するサイト) 期間：2023年2月1日(水)～3月20日(月) SNS掲載数：697件(海外連盟多数、Facebook 除く) 世界から届いたワールドシンキングデイカード9件掲載</p>
<p><国際女性デーイベント> 18-25歳対象ジェンダーに関する調査を担当したユースと一緒に考えてみよう。 テーマ：女の子のイメージはどこから？/生理って恥ずかしいモノなのか 期日：3月4日(土) 開催方法：オンライン 対象：中学生以上 82人</p>
<p><KIZUNA Day> 2023年3月11日(土)前後に全国各地で実施</p>

事業名	ジェンダー平等を実現するための社会への働きかけ
実績	<p><プラン・インターナショナル> 日本の高校生ジェンダー・ステレオタイプ意識調査レポート公開記念イベント「ユース・先生と一緒に考えるジェンダー・ステレオタイプの実態」 期日：5月12日(木) オンライン 登壇者：レンジャー1人</p> <p>気候変動とジェンダーに関する調査報告書ローンチイベント 期日：2023年3月28日(火) オンライン 登壇者：ユース1人</p>

	<p><外務省 日本・モンゴル学生フォーラム > テーマ：SDGs×ジェンダー オンライン学習会 期日：7月23日（土） 登壇者：SDG5推進委員1人、事務局1人 参加者：約100人</p> <p>合宿 期日：9月23日（金・祝）～9月25日（日） 会場：栃木県那須町 登壇者：SDG5推進委員1人、事務局1人 参加者：67人</p>
	<p><マイクロテクノロジーとの協働事業実施> マイクロンメモリジャパン株式会社 期日：8月1日（月）ジェンダー調査報告会（オンライン） 報告者：18-25歳対象「ジェンダー」に関する調査報告書2022ユース 実行委員2人</p>
	<p><東京ウィメンズプラザ主催事業への協力> 男女平等参画推進事業アンコンシャス・バイアス研修（オンライン） 期日：8月22日（月） 登壇者：「ジェンダー」に関する女子高校生調査報告書2021実行委員 1人</p>
	<p><デートDV防止全国ネットワーク> デートDVスプリングフォーラムへの協力 期日：2023年3月12日（日） 登壇者：SDG5推進委員2人登壇 スタッフ：SDG5推進委員2人、職員1人</p>
	<p><フリー・ザ・チルドレン・ジャパン> チェンジメーカー・フェスへの広報協力と登壇 期日：2023年3月28日（火） 登壇者：18-25歳対象「ジェンダー」に関する調査報告書2022ユース 実行委員2人</p>

事業名	ガールスカウトのPR
実績	<p><SNS広告> 国際ガールズメッセ告知Instagram広告 広告期間：9月28日（水）～10月11日（火） 対象：日本全国の18～25歳 目的：国際ガールズメッセ集客を図る 広告表示回数：792,248 リンククリック数：1,220</p>

	<p><プレスリリース> 年間配信数：14件 PR TIMES総ページビュー数 80,291PV、訪問者数 79,210</p>
	<p><広報資料の作成></p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ 増刷35,000部、年間配布数部 18,493部 ・小冊子 増刷3,000部、年間配布数 4,386部 ・アクティビティレポート2021 26,300部、年間配布数 1,145部 ・2022年カレンダー 1,200部（広報分）
	<p><日本連盟公式ホームページの運営> アクセス数：614,520（昨年度比-13.69%） 訪問者数：290,365人（昨年度比-16.01%） 新規訪問者数：198,243（昨年度比-14.27%）</p> <p><日本連盟公式ブログの運営> サイトビュー数：62,474 PV（昨年度比129.76%） 公開記事数：27記事</p>
	<p><SNSの活用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・Facebookページ ガールスカウト日本連盟ページ 総リーチ数：118,380（昨年度比1,814増） ガールスカウトStop the Violenceキャンペーン ページ 総リーチ数：753（昨年度比443減） Girl Scouts of Japan KIZUNA Line ページ 総リーチ数：1,690（昨年度比2,422減） ・Twitter フォロワー数：2,312（昨年度比44増） 総インプレッション数：111,445（昨年度比87,306減） ・YouTube 総視聴回数：55,788（昨年度比 -60%） チャンネル登録数：1,763人（昨年度比146増） ・LINE 有効友だち数：4,177人（昨年度比221増） ・Instagram フォロワー数：3,172人（昨年度比529増）

事業名	戦略コミュニケーション委員会
実績	<p>15回開催（オンライン） 公式Instagramの目的に沿ってアカウントの整理をおこなった。会員への公募によりSNS運営チームを募り、投稿内容を企画し作成、掲載した。</p> <p>公式Instagram広報戦略説明会を2回開催（オンライン） 期日：11月24日（木）、11月30日（水） 対象：日本連盟委員</p>

事業名	他団体との連携
実績	<p><ケアインターナショナル・ジャパンとの協働事業> Walk in Her Shoesジュニアアンバサダー 期間：2023年3月8日（水）～5月31日（水） 参加者：レンジャー55人</p>
	<p><教育協力NGOネットワーク（JNNE）> SDG4教育キャンペーン 期間：4月1日（金）～5月31日（火） ユースロビイングへの参加：シニア2人、レンジャー1人</p>
	<p><ダヴ> 内容：Free Being Me 大好きなわたし実施 期日：7月12日（火）ロハコ社員向けワークショップ（オンライン） 担当：SDG5推進委員、職員1人 期日：8月12日（金）中高生インターンシップ（オンライン） 担当：SDG5推進委員、職員 期日：9月11日（日）親子向け 北海道サツドラ（対面） 協力：北海道連盟 期日：10月3日（月）薬王堂内定式 宮城県にて（対面） 協力：宮城県連盟、職員1人 期日：11月14日（月）医療福祉専門学校×薬王堂（対面） 協力：岩手県連盟 期日：11月27日（日）親子向け 北海道サツドラ（対面） 協力：北海道連盟、職員1人</p>
	<p><ボーイスカウト日本連盟> 第3回全国こども体験フォーラム 期日：11月19日（土） 会場：ドリームドア 横浜ハンマーヘッド 体験ブース運営協力・パネリスト：神奈川県連盟 参加者：約100人</p>
	<p><東京ダンスフェスティバル実行委員会> 東京ダンスフェスティバル共催 期日：12月24日（土） 会場：上野恩賜公園竹の台広場 参加者：ガールスカウト会員 約50人</p>
	<p><一般社団法人あそび庁> 自分自身と他の人々の幸福のためにできることを自ら考え、行動につなげられる人材の育成、活力ある地域社会の形成・発展、世界平和に寄与するため、包括連携協定を締結した。 締結調印式</p>

<p>期日：2023年1月31日（火） 会場：文部科学省</p>
<p><人権教育啓発推進センター> 共催セミナー「性別で見る多様性と人権」（オンライン） 講師：ダイバーノン代表 飯田亮瑠氏 期日：2023年2月11日（土） 参加者：成人会員36人（17都道府県連盟）</p>
<p><日本損害保険協会（防災）> 小学生のぼうさい探検隊マップコンクール 佳作1カ団</p>
<p><環境省×東京都交通局（環境）> クールチョイス&スマートムーブへの協力 TVアニメ『ひろがるスカイ！プリキュア』タイアップポスター掲出 報告数：30件</p>
<p><防災科学技術研究所（防災）> 「KIZUNA Day 特別イベント『親子防災科学教室』」の実施 期日：2023年3月18日（土）（対面・オンライン） 会場：ガールスカウト会館 参加者：76人（25組）</p>
<p><NTT東日本、日本公衆電話協会（防災）> 教材申込1件（東日本2件、西日本1件）</p>

会議名	ガールスカウト推進議員連盟総会
実績	実施なし

財政

事業名	ガールスカウト会館の管理運営
実績	ガールスカウト会館1階部分の賃貸事業の実施

事業名	戸隠ガールスカウトセンターの管理運営
実績	春期期間：4月29日（金・祝）～ 7月8日（金） 利用者数：宿泊51人 日帰り70人（利用グループ14グループ）

	夏期期間：7月16日（土）～ 8月28日（日） 利用者数：宿泊535人 日帰り33人 （利用グループ16グループ）
	秋期期間：9月1日（木）～ 11月7日（月） 利用者数：宿泊174人 日帰り104人 （利用グループ15グループ）

事業名	助成金の獲得
実績	34頁「民間助成金」参照

事業名	寄付金の拡大
実績	ネット募金 46,854円 アフィリエイト 315,725円

事業名	寄付促進キャンペーンの実施
実績	<ul style="list-style-type: none"> ・6月8日（水）戸隠を想う日 チラシ作成・配布、過去の記念品販売による寄付 655,500円 ・10月30日（日）トレフォイルの集い オークションによる寄付 44,330円 ・12月寄付月間 SNSにて寄付の呼びかけを実施、寄付月間賛同パートナー登録

事業名	戸隠を想う日（6月8日）
実績	戸隠募金 3,107,968円

事業名	グッズ販売事業
実績	教材、その他ガールスカウト活動に必要なグッズの製作および販売

事業名	賛助会員トレフォイルの集い
実績	期日：10月30日（日） 会場：明治記念館 内容：新会員とグレードアップ会員の紹介、日本連盟事業報告、 賛助会員トレフォイル会計報告、トークセッション、交流会 参加者数：17人

委員会名	予算委員会
実績	期日：11月23日（水・祝） 会場：ガールスカウト会館

委員会名	戦略委員会：財政・組織中長期戦略検討委員会
実績	10回開催（オンライン）

委員会名	ファンドレイザーグループ
実績	4回開催（オンライン） 賛助会員、賛助会員トレフォイル、マンスリー募金の寄付推進

民間助成金

助成団体	事業名
一般社団法人霞会館	インターナショナルキャンプ
独立行政法人国立青少年教育振興機構（子どもゆめ基金）	インターナショナルキャンプ ガールズメッセ
株式会社日能研	コミュニティアクション チャレンジ100アワード 協賛金
マイクロン女性リーダーネットワークメンバー	『18-25歳対象 ジェンダーに関する調査報告書 2022』制作のための助成
Micron Technology Foundation, Inc.	2023年度事業「Chip Camp」「Girls Going Tech」 への助成

世界連盟への寄付

寄付金名	金額
国際友愛基金	1,915,141円
サンガム指定寄付金	402,347円
緊急支援寄附（ウクライナ連盟と周 辺の加盟連盟による避難者支援協 力）	8,438,709円

他団体役員等就任状況

団体名	役職名
内閣府・男女共同参画推進連携会議	議員
文部科学省・独立行政法人青少年教育振興機構の評価等に関する有識者会議	委員
独立行政法人環境再生保全機構	地球環境基金運営委員会委員
独立行政法人国立青少年教育振興機構 体験の風をおこそう運動	推進委員会委員
	企画推進チーム委員
公益社団法人国土緑化推進機構	緑の募金運営協議会委員
	緑の少年団表彰審査委員会委員
公益社団法人日本キャンプ協会	理事
公益財団法人日本ユニセフ協会	顧問
公益財団法人ハーモニィセンター	評議員
一般財団法人日本ユースホステル協会	評議員
社会福祉法人中央共同募金会	評議員
特定非営利活動法人自然体験活動推進協議会	副代表理事
特定非営利活動法人開発教育協会	理事
文部科学省委託事業「体験活動等を通じた青少年自立支援プロジェクト」	全国こども体験活動推進委員会委員
公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン	理事
公益財団法人ボーイスカウト日本連盟	評議員